

定義

試合はすべて、1名のレフリーと2名のタッチジャッジまたはアシスタントレフリーからなる「マッチオフィシャルMatch Officials」の支配下で行われる。試合主催者によって承認された「追加人員Additional Persons」に含まれるのは、控えのレフリー、および/または、控えのアシスタントレフリー、機器の使用によりレフリーの判定を補助する係、タイムキーパー、マッチドクター、チームドクター、チーム役員とボール係である。

タッチジャッジは、試合主催者または試合に携わるチームが指名できる。合図、タッチ、タッチインゴール、キックによるゴールの成否に責任を持つ。アシスタントレフリーは、試合主催者が指名できる。合図、タッチ、タッチインゴール、キックによるゴールの成否、不正なプレーを指摘する責任を持ち、レフリーの指示に従い、あらゆるレフリーの職務遂行を補佐する。

6.A レフリー 試合前

6.A.1 レフリーの指名

レフリーは、試合主催者が指名する。レフリーの指名がなければ、両チームが協議の上レフリーを決定する。双方の協議がまとまらない場合には、ホームチームが指名する。

6.A.2 レフリーの交替

レフリーがその職務を全うすることができなくなった場合には、試合主催者の指示に従ってレフリーの代理が指名される。このような指示がない場合には、レフリー自身が代理を指名する。それも不可能なときはホームチームが指名する。

6.A.3 試合前のレフリーの職務

- (a) **トス**：レフリーはトスを行わせる。一方のキャプテンが硬貨を投げ、他方のキャプテンが表裏をいう。トスの勝者は、キックオフか、サイドかのいずれかを選択する。トスの勝者が、サイドを選択した場合には、相手側はキックオフを選択しなければならない。逆もまた同様である。

試合中

6.A.4 競技場内でのレフリーの職務

- (a) レフリーは、試合中においては唯一の事実の判定者であり、競技規則の判定者である。あらゆる試合において、すべての競技規則を公平に適用しなければならない。
- (b) レフリーは、競技時間に全責任を有する。
- (c) レフリーは、得点に全責任を有する。
- (d) レフリーは、プレーヤーが競技区域から退出する許可を与える。
- (e) レフリーは、交替および入替えプレーヤーが競技区域に入る許可を与える。
- (f) レフリーは、規則に従って、チームドクター、医務心得者、またはその助手が競技区域に入る許可を与える。
- (g) レフリーは、ハーフタイムに双方のコーチが競技区域内に入り、チームにつく許可を与える。

6.A.5 レフリーによる決定の変更

レフリーは、タッチジャッジが、タッチを示すため既に旗を上げていた場合には、決定を変更することができる。

レフリーは、アシスタントレフリーが、タッチ、あるいは不正なプレーのあったことを示すため既に旗をあげていた場合には、決定を変更することができる。

6.A.6 意見を求めること

- (a) レフリーは、アシスタントレフリーに対して、その職務に属する事項、不正なプレー、または計時に関連する事項について意見を求めることができる。また、オフサイドの判断を含むレフリーのその他の職務に関する補佐を求めることができる。
- (b) 試合主催者は、機器を使用する係を指名することができる。レフリーは、インゴールにおいて、トライまたはタッチダウンが与えられるべきかの判定が難しい場合には、この係の意見を求めることができる。

インゴールにおいて、不正なプレーが行われた疑いがあり、トライまたはタッチダウンが与えられるべきかの判定が難しい場合、この係の意見を求めることができる。

この係に対しては、ゴールキックの成否の判定に関しても意見を求めることができる。

プレーヤーがトライをするためグラウンディングしようとした際、タッチに出なかったかどうかについて判定が難しく、レフリーまたはアシスタントレフリーが不確かな場合、レフリーはこの係に意見を求めることができる。

トライの起りそうな状況で、タッチインゴールになりボールがデッドとなったかどうかの判定が難しい場合、レフリーまたはアシスタントレフリーはこの係に意見を求めることができる。

- (c) 試合主催者は、各ハーフの試合時間の終了を合図するタイムキーパーを指名できる。
- (d) レフリーは、本条で認められたもの以外は、誰の意見も求めてはならない。

第6条 マッチオフィシャル



6.A.7 レフリーの笛

- (a) レフリーは笛を所持し、試合の前後半の開始と終了に笛を吹かなければならない。
- (b) レフリーは、いつでも笛を吹いて試合を停止する権限がある。
- (c) レフリーは、得点またはタッチダウンを示すときに、笛を吹かなければならない。
- (d) レフリーは、反則または不正なプレーによるプレーの停止を指示するときに、笛を吹かなければならない。反則したプレーヤーに退場を命じ、または警告を与えた場合には、ペナルティトライ、またはペナルティキックを与えるときに再び笛を吹かなければならない。
- (e) レフリーは、ボールが競技外となったとき、プレーできなくなったとき（アンプレーブルになったとき）、ペナルティを与えるときに、笛を吹かなければならない。
- (f) レフリーは、プレーの続行を危険と認めたとき、または、プレーヤーが重大な負傷を負ったと認められるとき、笛を吹かなければならない。

6.A.8 レフリーと負傷

レフリーが、反則やボールがデッドになったためでなく、プレーヤーの負傷によってプレーを停止した場合、スクラムによってプレーを再開する。最後にボールを保持していたチームがボールを入れる。どちらもボールを保持していなかったときは攻撃側が入れる。

第6条 マッチオフィシャル



6.A.9 ボールがレフリーに触れた場合

- (a) ボールまたはボールキャリアーがレフリーに触れ、双方いずれの側も利益を得なかった場合には、プレーを続行する。フィールドオブプレーにていずれかの側が利益を得た場合には、レフリーはスクラムを命じ、最後にボールをプレーした側がボールを投入する。
- (b) インゴールにていずれかの側が利益を得、攻撃側がボールを保持していた場合には、レフリーに触れた地点で、トライを与える。
- (c) インゴールにていずれかの側が利益を得、防御側がボールを保持していた場合には、レフリーに触れた地点で、タッチダウンを与える。

6.A.10 インゴールでボールがプレーヤー以外の人に触れた場合

レフリーは、触れなかった場合の次のプレーを判断し、その触れた地点においてトライまたはタッチダウンを与える。

試合後

6.A.11 得点

レフリーは得点結果を両チームと試合主催者に報告する。

6.A.12 プレーヤーの退場

プレーヤーの退場があった場合、レフリーは不正なプレーに関し、試合主催者に文書で速やかに報告する。

6.B タッチジャッジおよびアシスタントレフリー

試合前

6.B.1 タッチジャッジおよびアシスタントレフリーの指名

すべての試合には、2名のタッチジャッジ、または、2名のアシスタントレフリーをおく。試合主催者による指名がない場合には、両チームがタッチジャッジを1名ずつ出す。

6.B.2 タッチジャッジまたはアシスタントレフリーの交替

試合主催者は、レフリー、タッチジャッジまたはアシスタントレフリーの代理となるものを指名できる。この第3タッチジャッジあるいは第3アシスタントレフリーは競技区域の周辺区域に待機する。

6.B.3 タッチジャッジおよびアシスタントレフリーの指揮

両タッチジャッジ、または、アシスタントレフリーはレフリーの指揮下にある。レフリーはタッチジャッジまたはアシスタントレフリーの職務に関して指示することができ、またその決定をくつがえすことができる。レフリーは不適当と認めたタッチジャッジを交替させることができる。また不行跡を犯したと認めたタッチジャッジを退場させる権限があり、その場合には試合主催者に報告する。

試合中

6.B.4 タッチジャッジまたはアシスタントレフリーのとりべき位置

- タッチジャッジまたはアシスタントレフリーはグラウンドの両側に1名ずつ位置する。ゴールキックの判定を行う場合を除き、タッチにとどまる。ゴールキックの判定を行う場合には、ゴールポスト後方のインゴールに立つ。
- アシスタントレフリーは、危険なプレーあるいは不行跡のあったことをレフリーに報告するときは、競技区域内に入ってもよい。ただし、次にプレーが停止した時点に限る。

6.B.5 タッチジャッジ/アシスタントレフリーシグナル

- (a) タッチジャッジまたはアシスタントレフリーは、それぞれの決定を示すための旗、またはそれに類した物を持つ。

- (b) **ゴールキックの結果に関する合図：**
 コンバージョンキック、またはペナルティキックによるゴールキックが行われる場合には、タッチジャッジまたはアシスタントレフリーは、このキックの結果を合図して、レフリーを補佐する。タッチジャッジまたはアシスタントレフリーは、それぞれゴールポストの下、および後方に立つ。ボールがクロスバーを越え、ゴールポストの間を通った場合には、旗を上げゴールを合図する。



- (c) **タッチの合図：**タッチジャッジまたはアシスタントレフリーは、ボールまたはボールキャリアーがタッチに入った場合には、旗を上げなければならない。ボールを投げ入れる地点に立ち、投げ入れる権利があるチームの方を示さなければならない。ボールまたはボールキャリアーがタッチインゴールに入った場合にも、合図しなければならない。



第6条 マッチオフィシャル



- (d) **旗を下げる場合：**タッチジャッジまたはアシスタントレフリーは、ボールが投入されたならば、旗を下ろさなければならない。ただし、次の場合を除く。

例外1：ボールを投入するプレーヤーが、足のどの部分でもフィールドオブプレーに踏み入れた場合、タッチジャッジまたはアシスタントレフリーは、旗を上げ続けなければならない。

例外2：ボールが投げ入れるべきチームによって投げ入れられなかった場合、タッチジャッジまたはアシスタントレフリーは、旗を上げ続けなければならない。

例外3：クイックスローインに際して、タッチに出たボールが別のボールに変更された場合、あるいはタッチに出てボールがデッドとなった後にボールを投げ入れるプレーヤー以外の者がボールに触れた場合、タッチジャッジまたはアシスタントレフリーは、旗を上げ続けなければならない。

- (e) ボールが正しい地点から投げ入れられたか否かを決定するのは、タッチジャッジまたはアシスタントレフリーではなく、レフリーである。

- (f) **不正なプレーの指摘：**アシスタントレフリーは、不正なプレーあるいは不行跡のあったことを、レフリーに合図するため、旗を水平にタッチラインと直角にフィールドに向かって上げる。



第6条 マッチオフィシャル



6.B.6 不正なプレーを合図した後

試合主催者は、アシスタントレフリーに対し、不正なプレーのあったことを合図する権限を与えることができる。レフリーに対し、不正なプレーのあったことを合図する場合、アシスタントレフリーは、次にプレーが停止するまでタッチにあってこの件以外の職務を果たさなければならない。アシスタントレフリーは、レフリーから呼ばれた時点で競技区域に入り、レフリーにその反則を報告できる。これに対しレフリーは、必要と判断するどのような措置もとってよい。これによる罰は、不正なプレーに関する競技規則(第10条)を適用する。

試合後

6.B.7 プレーヤーの退場

アシスタントレフリーの合図とレフリーへの報告により、プレーヤーの退場があった場合、アシスタントレフリーはその件に関する報告を、試合後レフリーに、文書でできるだけ速やかに行い、試合主催者にも提出する。

6.C 追加人員

6.C.1 第3タッチジャッジまたはアシスタントレフリー

第3タッチジャッジまたはアシスタントレフリーが指名されている場合は、レフリーは、プレーヤーの交替および入替えに関する権限を第3タッチジャッジまたは第3アシスタントレフリーに委譲することができる。

6.C.2 競技区域に入ってもよい者

マッチドクターおよびチームのプレーヤー以外の者は、レフリーが認めた場合に限り競技区域に入ってもよい。

6.C.3 競技区域に入ることに對する制限

負傷の起きた場合、これら追加人員は、プレーが継続中でも、競技区域に入ってもよい。ただし、レフリーが認めた場合に限る。負傷以外では、ボールがデッドのときに限る。